

登録10年の取り組み報告⑤

研究機関との連携

ユネスコエコパーク登録地域に求められる生物多様性の保全や経済発展の分野には、それを裏付ける科学的なデータの蓄積が必要とされます。高等教育機関がない綾町には、これまでこうした科学的データを蓄積していく仕組みがありませんでした。

そこで登録を機に、関係者の人脈などを用いながら外部の研究者・研究機関との連携を図ってきました。特に、県内の大学と包括的連携協定を結ぶことで、綾町をフィールドとした調査研究を行い継続的に科学的データを蓄積していくとともに、研究者や学生を町に呼び込むことを目指してきました。

際大学と結び、昨年度までに宮崎大学と20件、南九州大学とは10件のテーマ(継続テーマ含む)について委託調査・研究を行っています。この委託研究は綾町からテーマを大学へ提案し、研究費を提供して進めていくものです。

また、昨年度までに外部の調査研究機関23機関と連携した研究の総数は130件にのぼり、そのうち60件は包括的連携協定を結んでいる3大学で行われています。ほかに刊行物論文などについては、人文社会学系分野で17件、自然科学系分野で23件、書籍・商業誌などで6件、国際会議・学会発表が6件ありました。これらの調査研究の経過や結果は、毎年、年度末に成果報告会を開催しその内容を本誌などに掲載しています。調査研究は、

テーマによっては長い期間取り組むことが必要なものもありますが、この10年で蓄積されつつある科学的データを綾町の持続可能なまちづくりに活用していくよう、ユネスコエコパーク推進室では関係する組織・団体・企業との調整や情報発信を強化していきます。



宮崎大学との包括的連携協定調印式(2015年)



宮崎大学によるイシガメの生態調査の様子



宮崎大学による小型ほ乳類調査



南九州大学の子ども向け科学実験教室



成果報告会の様子

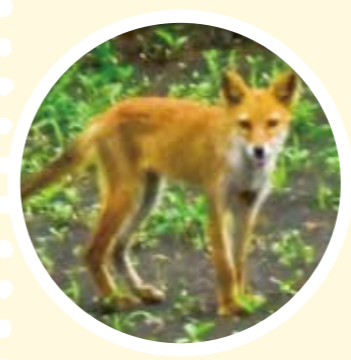
綾ユネスコエコパーク推進室・綾ユネスコエコパークセンター
 ☎77-3482 URL <https://ayabrcenter.jp> ※エコパークセンターは毎週日・月曜日および祝日休館
 感染症の影響による休館等の情報はホームページで随時更新します

column

ホンドギツネ

昔話にも登場するほど日本人に親しまれているギツネ。日本には、北海道のキタギツネと本州・九州のホンドギツネの2種類がいます。人の暮らしの近くにいてもかわらぬ、あまり目にする事が出来ない動物かもしれませんが、知能が高く、賢いイメージがある一方で、臆病で警戒心が強い面もあり、早朝や夕方など人目につかない時間帯にだけ活動しています。河川敷や堤防、畑の土手など人の管理する環境を巧みに利用してエサを捕まえます。

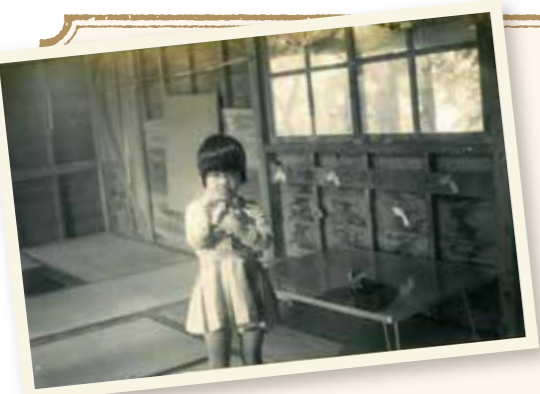
一夫一婦で春に子どもを産み、子ギツネは夏ごろから単独行動をします。今も昔も私たちの近くにいて臆病な隣人を、これからも温かく見守ってほしいものです。



ムラの肖像

1970年前後の久木野々公民館と子どもを写した1枚。農家が多かった同地区には、繁忙期にあたる6月に季節保育所が設置され、公立保育所から保育士が派遣されていました。保育士は画用紙などを持ち込み、10人ほどいた子どもたちにお絵描きや折り紙をするなどして保育にあたっていたといえます。

季節保育所がない時期は、子どもたちはチャンバラごっこや釣り、川遊びなどをして自然の中で元気に育ちました。また、農作業や水汲みなどの家事を一生懸命手伝っていたそうです。



※昨年11月から町内の小規模集落で行っている「綾の肖像プロジェクト」で集めた写真の中から毎月紹介します